

C-20 成人男子の体型の年代的变化

お茶の水女大家政 ○長谷部ヤエ 武藤治子 都立立川輝大 原田隆子

実践女大家政 飯塚幸子

目的 被服設計の基礎資料を得るため、日本人成人男子を対象として身体計測を行い、今日は体型の年代的变化について観察した。

方法 被検者は東京及びその近郊に在住する20～59才の男子735名である。研究項目は、計測値19項目（身長・右肩先高・胸高・右前上腸骨棘高・右膝関節高・上肢長、胸囲・胸圍・腰圍・頸付根圍・右腕付根圍・右大腿最大圍、肩先間幅・胸部横径・胸部横径・腰部横径・胸部矢状径・胸部矢状径・腰部矢状径）及び示数値18項目（長径項目/身長5項目，周径項目/胸圍5項目，幅径項目/幅径項目7項目）である。

結果 主な結果は次の通りである。計測値についてみると、長径項目は漸減の傾向がある。周径項目では、胸圍が加齢とともに著しく増加する。幅径項目では、胸部矢径が著しく増加し、胸部横径は漸増する。次に示数値についてみると、胸圍/胸圍、胸部矢状径/横径・胸部矢状径/横径・腰部矢状径/横径は加齢とともに著しく増加し、胸部横径/胸部横径は漸増する。また頸付根圍/胸圍・大腿最大圍/胸圍は漸減する。以上のことから体型の年代的变化についてみると、加齢につれての体型の変化は体幹部特に胸部にあらわれる。すなわち、胸部の太さが増大するが、それは横径よりも矢状径の増加に負っており、いわゆる厚みのある体型となる。これに対して頸部および下腿は相対的に細い体型となることが認められた。